

ぼくのひでくん

北小路 健仁

ぼくには、昨年、新しいお父さんができた。お父さんの名前は、ひでくん。体が大きくて毛がモジャモジャで、少しゴリラにている。ひでくんは、おかしが大好きで、ひでくんの実家に行くと、紙ぶくろいっぱいのおかしをもらって、いつもうれしそうに帰ってくる。大きなおかしも一口で食べちゃうし、沢山入ったおかしを、一度に食べてしまう。まえばママもおねえちゃんもあまりおかしを食べなかつたけれど、今では、みんなテレビを見て、笑いながらおかしを食べている。

今年の夏、ぼくたちは家族四人でキャンプへ行つた。毎年、車いっぱいの荷物を、ママが一人で用意していたので、大変そうだったけれど、今年は、力持ちのひでくんがいてくれて、山ほどの荷物をテトリスのように、きれいに積んでくれた。

海では、いっしょに城をつくった。ぼくより、だれよりまじめに、すなを集めてはかためていた。夜は、キャンプ場にもどり、バーベキューをして、花火をした。ぼくは、両手に一本ずつしか花火を持ったことがなかつたのに、ひでくんは両手に五本もって、うれしそうにふり回していた。地面に置いて火をつける花火は、ママが怖いといつてやったことがなかつたけれど、今年はひでくんが、真剣に説明を読み、ぼくたちを少しはなれた所にまた

せ、火をつけてくれた。ぼくの背より高く火が上がり、迫力があつてきれいだった。

一万人プールにも行った。黄色と青の長いウォータースライダーがあり、ぼくは初めて挑戦したが、待つ場所が高くて怖いので、一度すべって、下で見ている。すると、おねえちゃんが笑いながらすべってきて、次にママが、「キヤー」と叫び笑いながら下りてきた。その時、まわりの人が上を見て、「うおー」とさわぐので、上を見てみたら、恐ろしい速さで、とても大きなかげがすべり落ち、バシャーンとすごい音がして、水しぶきがみんなにかかった。・・・ひでくんだった。その日ひでくんは、十三回すべった。すごかった。

カギがこわれて、ずっと使えなかったぼくの自転車を、いともかんたんに直してくれただひでくん。上手に乗れないぼくの自転車の後ろをおさえてくれて、なんども練習したら、やつと一人で乗れるようになった。ぼくもひでくんも、汗がびっしょりだった。

ひでくんは、いつも優しく、おっとりしていて、おもしろい。ぼくが間違っても、しずかに話して教えてくれる。ぼくのゲームや好きなアニメの話をとことん聞いてくれる。ぼくのそばにはいつもひでくんがいる。まだ「お父さん」とよんだことはないけれどひでくんは、ぼくの最高で世界一のお父さんだ。

ひでくんいつもありがとう。

お父さんになってくれて、本当にありがとう。

評価のポイント

ひでくんの人柄の魅力や、言葉ではなく行動で家族を幸せにしようとする様子が感じられる作品。